

# 松陰

第 4 号 1982.11

## 談話室

### 授業と図書館サービスの融合

文学部非常勤講師 志 村 尚 夫

大学生の読書について、朝日新聞社刊の『'82民力』によれば、多方面にわたる読書がなされていることが見返しページに載っている。

しかし、自分の研究分野の主題について調べることはまだ充分ではない感じがする。

大学の授業は講義と演習、あるいは理科系と人文系の授業に違いはある。しかし、いずれの授業も教官の講述されたテーマについて、自分なりにそのテーマの意図やその組立て、教室の中で指示される参考文献の調査などが自主的学習にとって不可欠のことである。

大学図書館は戦後、参考業務の拡充とそのサービスの発展が大きな活動目標として取り上げられた。それは、図書館利用者のために、調べたい人物名や書名の調査、データの確認などについて、質問があれば専任スタッフが助言してそれらを探し出すサービスなのである。

一方、大学の授業と密接に関連するのが**指定書制度**であろう。教官が講義の中で使うテキストを補完したり、さらにその講義を深めるために、それらの授業中でふれられたテーマに関連して密接な参考図書を一リストアップして図書館にそれらを指定すれば、図書館側では、複数のそれらの参考図書等を揃え、受講中の学生に対して優先的に貸

出しが行われるものである。

例えば、同じ語や句でもそれぞれの辞典によって定義や引用例が若干異なっていく。岩波書店の『広辞苑』補訂第2版によって**共通語**を引いてみると、「かなり広い地域(例えば関西、日本、南米)にわたって、共通に通用する言語」として記載されている。一方、小学館の『国語大辞典』を引くと、①の項で「それぞれ異なる言語を用いる民族の間の伝達のための言語」と、②の項で「一つの国の中で地域、階級の違いを越えて通用する言語」と記載されている。また**耽美主義**という語を『国語大辞典』で引いてみると、「19世紀末、フランスおよびイギリスを中心に起こった芸術思潮」と解説されている。この箇所では、いつの時代とどの場所かが簡明に叙述されている。これら、さまざまな小さなことでも、文献を読んだり、その意味などを知ることによって、研究の糸口が探り出せるかも知れない。

ここで、もし学生諸君が、それらの辞書や目指すテーマの図書が、どのように探し出すのか解らなく、しばしばとまどうであろう。その時は、図書館員に気軽に相談すると明快な答が帰ってくる。

参考 広辞苑 岩波書店(813.1-Ko39)

国語大辞典 小学館(813.1-Ko47)

# 請求記号の機能と役割

## 1. はじめに

図書館の図書資料を検索する場合にきわめて有効な手がかりになるのが目録カードである。この目録カードは一定の原則によって排列しており、受け入れた図書資料のすべての索引(Index)である。わたしたちは、この目録カードを手がかりに能率的に効果的に図書資料を検索することができるわけである。しかしながら、最近の図書館利用者は、直接書架上の図書資料を利用することのできる開架式図書館(free open access)に接する機会が多くなり、この便利な目録カードの利用に気づかない人がいる。この目録カードの検索方法に関しては他にゆだねることにし、ここでは、目録カードの検索と図書資料の検索の際にきわめて重要な役割を果たす「請求記号」に関して若干、思い立つままにふれてみたいと考える。なお、この小稿が図書館利用者に少しでも参考になれば幸いである。

## 2. 請求記号とはなにか

請求記号(Call numberまたはCall mark)は、図書資料と図書館利用者との橋渡し役をするものである<sup>1)</sup>。また、図書館利用者が図書資料を求める場合に手がかりになるのが目録カード上に記載されてある請求記号である。図書館の図書資料には、ラベルが貼付しており、このラベルの中の番号や記号を根拠にして書架に排架してある図書資料を探していけば、目的の図書資料にたどりつける仕組みになっている。このように請求記号は、図書

資料の排架位置を表現し、同時に図書資料の主題をも表現している。したがって請求記号の意味を理解することによって図書資料の内容を判断することもでき、請求記号に関する知識を身につけることによって調査研究および教育効果をより一層高めることもできるのである。

さて、請求記号の構成は、一般的に分類記号と図書記号から成り、分類記号が図書の内容に与えられるのに対し図書記号は、同一分類記号の中を順序づけるために個々の図書につける記号である<sup>2)</sup>。この請求記号によって図書資料は、主題ごとに区別され順序づけられて書架上に排架されてある。また、図書資料を探す場合や書架に図書資料を排架する場合のすべての手がかりになるのがこの請求記号である。

### (1) 分類記号

個人の書斎でも個人の都合の良いためには、図書資料の整頓が必要である。机上や書棚に雑然と順序なく置かれてあるとしたら、数百冊の文庫でさえ、図書資料を探しだすにはそうとうの時間と労力を要する。これがもし背文字の書名や著者名が見えるように整頓してあれば一見して容易に発見することができ、作者との知的、美的交響が随時展開される。更に蔵書が増すに従ってその整頓が何等かの方法によらなければ自分自身のためにも不便を感じることはよく経験する。実際に、だれもが自由に利用できる図書館において、図書資料が順序のない排列や整頓をしていたとしたならば求める図書資料を自由に早く発見することができない。したがって雑多な主題を含む図書資料

を類似した主題の関連のもとに集めて排架しておくことによって求める図書資料が簡単に探しだすことができる。この主題を通じて図書資料を体系化することを分類(Classification)という<sup>9)</sup>

分類の目的は、図書資料を検索するための機械的・時間的節約法であり、その利用の効果を高めることにある<sup>10)</sup>。そこで、図書館では、図書資料の主題を体系的にまとめて記号化(番号化)し、この主題番号から図書資料の内容(主題)を把握できるようにしてある。つまり図書資料の背に貼付してあるラベルの一段目に記入してある。

分類記号の決定には、一般的にわが国では、「日本十進分類法(Nippon decimal classification〈略称NDC〉)」を用いている<sup>11)</sup>。したがって「NDC」の知識をもっていれば大学図書館での利用はもちろん公共図書館でも、そしてその他の専門図書館でも図書資料が検索しやすくなるわけである。

「NDC」は図書資料の主題を大別して10区分し、その構成は、「類」「綱」「目」の3位からなり、さらに細かく分類する場合は、「・(ポイント)」をつけて「細目」まで展開する。この分類に使用した番号は、数量を表わすものではなく一番号一番号が意味をもった番号であり、一定の原則に従ってこれらの数字が各所で組み合わせられて構成されている。したがって、分類記号の意味を心得ていると図書資料の内容も判断できるわけである。

## (2) 図書記号

図書資料を主題別に分類すると、関連主題がカ所に集中し、同じ記号の図書資料群は数十冊にもなる。たとえば日本文学の現代小説はすべて「913.6」となる。そこで同一分類記号の図書資料群をさらに検索しやすくするために一定の順序をつけて排列するのが図書記号(Book number または Book mark) もしくは著者記号(Author number または Author mark) である<sup>12)</sup>。図書記号もしくは著者記号のきめかたには

ア. 図書の受け入れ順記号

イ. 年代順排列記号

## ウ. 著者順排列記号

等の方法があるが、一般的には著者順排列法がもっとも主流をなしている<sup>13)</sup>。この方法は、同一分類のなかをその著者名順に排列する方法で<sup>14)</sup>、著者の姓の読みを「日本著者記号表」によって記号化したものである。ただし、著者4人以上からなる多数著者と編集者からなる図書資料には、原則として書名の読みを記号化する。また欧米人名は、原つづりによって記号化するのが一般的である。このように図書記号は、ローマ字と特定の数字との組み合わせによる方法になっている。

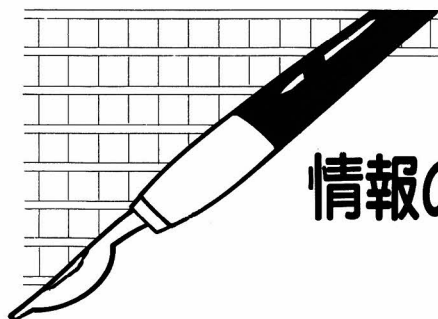
## 3. おわりに

図書館は、情報を蓄積し、提供する場所である。閲覧室の書架にはたくさんの情報源になる図書資料が排架されているが、ほぼ大多数の大学図書館では、書庫に排架されている。その中には図書・雑誌類以外の資料や視聴覚関係資料も収蔵されている。収集された図書資料は、いかなる情報検索にも対応できる仕組みになっている。しかしながら図書資料の検索方法を知り得ずして十分なる情報検索を期待することはできない。したがって図書資料の検索での最も重要な役割をもつ請求記号の機能と役割に関して熟知することは、きわめて重要であり、調査研究効果を高める秘けつにもつながる。とにかく情報を得るためには、実際に検索練習をしてみる必要がある。必要な図書資料を利用者の前に差し出すのは、図書館の仕事であり、図書館を使いこなすのは、利用者の仕事である。

## 参考文献

- (1) 図書分類と図書記号 仙田正雄著 蘭書房 1956年 p.162
- (2) 日本十進分類法 森清編 日本図書館協会 1978年 p.21
- (3) 講座新図書館学4 図書館科学会編 教育出版センター 昭和51年 p.11
- (4) 図書分類法要説 加藤宗厚著 理想社 昭和37年 p.16
- (5) 現代の図書館 Vol.11 no.2 1973. 6 p.49-59
- (6) 図書分類と図書記号 仙田正雄著 蘭書房 1956年 p.158
- (7) 図書館ハンドブック 日本図書館協会編刊 1977年 p.274
- (8) 日本著者記号表 もり、きよし編 日本図書館協会 1974年 p.4

(図書館H.S記)



わたしの研究生活 第4回

# 情報の上手な選択者になろう

体育学部講師 笠井達哉

## 1. はじめに

私の研究分野は、自然科学の中で体育学と呼ばれる分野であるが、これはヒトを対象とした研究領域であるがゆえに、その研究方法は気の遠くなるほど広く、複雑な研究分野である。特に私は、ヒトが歩き、走り、跳ぶ（専門的には随意運動という）のはどのようなメカニズムがそこに内蔵するのかに関心を持っているので、一筋縄の研究方法ではなかなか相手は“ご用!!”となってくれない。そこには、複合領域と呼ばれるさまざまな解析手段を駆使し、どうにかしてお縄にしようとする努力が必要となってくる。

ここでいう複合領域とは、どんな領域を言うのかといえば、現在のように情報が氾濫し、しかもヒトのように複雑な要因がお互いにまざり合っている機能が働いているものに対し、そのメカニズムを究明するためには、既存の研究領域だけではどうしても手に余る。そこで、隣接諸科学の知識と手段を借用せざるをえないという必要性から、1970年代から強く言われだした研究領域のことである。特に、諸科学が究極的にはヒトの幸福に寄与することを目的としてその存在価値がある以上、ヒトの複雑さから鑑みて、その研究手段が複雑になるのは必然的な帰着である。最近頻りに耳にする“ライフ・サイエンス”というのはその代表的な例といえる。

このように、複雑になる研究分野とそれに平行して複雑で膨大な量の情報洪水の渦中にいる我々が、その中から今自分に必要な情報はどれなのか

という情報の上手な選択ができることが最も大切な問題といえる。そこでこの情報の上手な選択という点に関し、現在私が考えていることを以下に説明し、少しでも読者の参考になれば幸いである。

ここで、自分に必要な情報がみつかったとして、どのように入手するのか。あるいはどのようにして必要な情報をみつけるかという方法についてのお話しをしないのは、すでに先達が述べていることであり、二番煎じを嫌ったからである。特に、研究の二番煎じは見苦しいからである。

## 2. 情報の選択は重要な個人の能力

まず最初に強調したいのは、現在は黙っていても目といわず耳といわず我々の外受容器を通して情報は凄い勢いで流入してくる。この膨大な情報量の中から必要な情報を選び出すことが研究の成否を左右する最も大切な仕事である、ということである。情報を篩い分けるのが自分自身である点に特に注意して欲しい。そこには必ず自分の主観が入る。つまり、必要・不必要を決定する判断規準が個人に負っていることである。この判断の規準になるもの（結果的にはその人の知識の程度ということになる）が、どの程度の大きさの網であったのかによって獲物の引っ掛け具合、あるいはその量が決定される（これは講義をする先生と、それを聞く学生の間に常に起る悲喜劇に似ている）。

しかし、ただその網も大きければいいというものでもない。当然、網目の大小が重要である。大

きすぎれば大切なものもどんどん擦り抜けてしま  
うだろう。そうかといって小さすぎると、擦り抜  
けて欲しい塵までも網にひっかかり、抜き差しな  
らなくなってしまう。大切なことは、網目のしっ  
かりしたものを持って獲物を取ろうとすること  
である。この網とその目を持つ背景として大切な  
のは、対象に対する“関心の程度(興味)”とそれに  
伴う正しい“知識”である。ヒトは、関心があり、  
それが必要だと思う時にのみしっかりした網を持  
ちうるのだから。

### 3. 活字は信用できるか？

ヒトはどういう理由からか、数字や活字は信用  
に値するものという固定概念を持っている。ヒト  
は菓の効能書きを見てその成分がほんの芥子粒程  
度にも含まれていなくとも、その効能書きと含有  
量を示した数字に満足の笑みを浮かべるのである。  
(それにしても、何と巧妙なヒトの心理をとらえ  
たやり方であることが!!)。大切なのは、数字にし  
ろ活字にしろそれがどのようなヒトの手でどのよ  
うな経過の結果でて来たものかを十分吟味する必  
要があるということである。

週刊誌やマンガ本に書かれていることを頭から  
信用するヒトはいないのと同様、例えばそれが教科  
書に書かれていたことであっても、所詮ヒトの書  
いたことであるから頭から信用してかかるのは疑  
問である(ここに書かれていることは、筆者が随  
筆風に心に浮ぶことを無責任に書き散らしている  
が、活字として読者の目にふれると、読者はその  
まま信じる?)。だれかが言ったように、疑うこと  
から新しい発見や発明は始まる。すべて新しい独  
創的な仕事は、疑いそして発想の転換から生まれ  
るものである。

### 4. よい先達を見つけること

ヒトはだれでも、何に対してでも満足すること  
から進歩は止まる。また、満足していなくても現  
実に妥協した時から進歩は止まる。では、現実に

満足せず、妥協しないためにはどうすればいいの  
だろうか?。それは自分のやろうとする分野の世  
界の広さを知ろうとする努力と姿勢を常に持ちつ  
づけることである。宇宙の広さを知れば、地球上  
の出来事など小さい小さい。地球の誕生の長さを  
知れば、人間の生きた時間などほんの瞬き程度の  
時間である。これらは極端な例かもしれないが、  
自分の生きて行こうとする世界を知るということ  
は、それも求めれば求めるほど気の遠くなるよう  
な広くて奥深い世界を知れば知るほど、自分自身  
の欲求水準は高まり、現実に妥協するなど考えら  
れなくなるものである。

そこで、未知の航路には水先案内人が必要なよ  
うに、やはりそれぞれの分野でこれだと思う先達  
(先生、先輩etc.)が是非必要である。いい先達  
に恵まれるか恵まれないかもまた、その個人一人  
一人の求め方にかかっている。“類は友を呼ぶ”の  
諺通り、その人の求め方に応じて、それなりのヒ  
トしか求められないものである。この先達によっ  
てもたらされる情報の選択能力は計り知れないも  
のがある。しかも、何にも増して有益であることを  
知らねばならない。

### 5. おわりに

ここでは、必要な情報の収集の仕方については  
触れなかった。今の世は、情報は氾濫し、集める  
時代からそれらを上手に選び取る時代に変って来  
ていると考えるからである。そこにはやはり、個  
人個人の知恵(知識)と興味と努力という自分自  
身と深くかかわった所が出発点であり、自分自身  
で情報の上手な選択者になれるように努力するこ  
とが最も大切であるという最も平凡な方法が何に  
も増して大切なことを特に強調しておきたい。

自分の勉強に必要な本は、できるだけ自分で持っていると思っても、学生ではその何分の一も買えないのが現実です。そんな私たちにとって、無料で簡単な手続きで貸出しを受けられる図書館は大助かりです。

誰しも経験のあるのは、テストやレポート提出直前のラスト・スパートになってから急に行きつく場でしょう。ここに日頃の成果が表われるのです。普段、図書館を利用していれば、図書館のどこに何があるかわかり、その時になって慌てないで済みます。また、図書館の方に顔を覚えられると、思いがけない情報をアフターケアとして教えて貰える余得もあります。

さて、四年生になると最大の課題、卒論が待っています。出納台の協の利用案内の一つに『専門図書館の紹介』という小冊子があります。これは

本学の図書館で不十分な場合に、資料を手にする道しるべとして随分役立ってくれます。これに気付くだけで、また違った図書館の利用法が発見できそうです。

最後に図書館への希望として、現状では手狭な

ので独立した建物の図書館を造って下さい。室内は自然光も含めて明るくし、床にはカーペットを敷く（足音や椅子を引く雑音がなくなる）。防音断熱材で厚くした壁、休息室を兼ねたコーナー、疲労度の少ない一人1組の机と椅子（今のより低め

## 日頃の利用がラスト・スパートの成果を左右

文学部国語国文学専攻4年  
橋岡 佐知子

のものがよい）、絵や写真を展示できるギャラリーや情報交換コーナーもほしい。学内利用者だけでなく、できれば地域の人々にも開放できる図書館にしたい。コンピュータ管理システム、視聴覚ライブラリーも是非実現してほしいと思います。

## 著者からひとこと

### 芭蕉のころ

芦書房〔911.32-F74〕

教養部教授  
福田 真久

俳聖芭蕉の生誕・出仕・亡命・修学・江戸下向・深川芭蕉庵から、初期の貞門流の俳諧や談林調の影響、そしてわび・さびの蕉風確立の過程と、野ざらし紀行・笈の小文・更科紀行・奥の細道・幻住庵記・嵯峨日記・閑関の説などを通して、芭蕉の人生と芸術とを論じている。

その中で、特に芭蕉の最後の心境が、「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」ではなく、翌日の改作句「清滝や波に散り込青松葉」であり、

芭蕉翁は迷いなく澄明な心境で亡くなったという新説を提言している。この新説は昭和43年に発表され、学界や俳壇に注目され、新聞にも紹介された。（これが契機となって、京都奥嵯峨の保津峡落合に、青松葉句碑が建立された。他に、『芭蕉の自我と救い』『松尾芭蕉論』の著書がある。）

参考 芭蕉の自我と救い 教育出版センター〔911.32-F74〕  
松尾芭蕉論 教育出版センター〔911.32-F74〕



# レファレンス

図書館では、みなさんからの質問に、資料をもとにしてお答えしています。実際にあった事例を紹介しましょう。

**質問** 最近出版された本の正式書名を知りたい。

**回答** 新しく出版された本を調べるツールには、『週刊日販速報』『東販週報』『日本全国書誌・週刊版』『ウイクリー出版情報』『出版ニュース』『新刊図書目録(東販)』等多数ある。ところで、この場合は本の出版社名が分かっているという。それならばその社の出版目録を見ればよいが、出版目録は各社とも年に1回位しか発行していないから、新しい出版物については、その社で発行する雑誌に毎月載っている出版案内を見た方がよい。次に、どの社でどんな雑誌を発行しているかを調べるのであるが、『出版年鑑』に収録されている“発行所名簿”を参照すれば簡単にわかる。そこにリストされてある雑誌を当ればよい。果して、先月号の雑誌でお目当ての本を確認することができた。

**質問** アメリカの地名でウンデット・ニー(Wounded Knee)の意味と由来を知りたい。

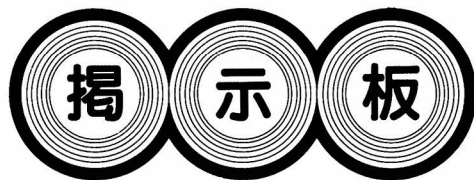
**回答** ウンデット・ニーというと、最後のインディアン虐殺事件の場所として有名であり、最近で

は、1973年におきた町の占拠事件が記憶に新しい。割合簡単にわかる質問と思ったが、歴史・地理・政治・民族学関係の本を見るが出てこない。それというのもここは、サウス・ダコタ州の1寒村であるから、通常の事典等では説明されていないため。アメリカン・センターへ電話で問い合わせると、スー族の言葉で「傷ついたひざ」という意味と教えられる。由来がわからないため、さらに調査を続行する。町の占拠事件は近頃のことであるから、新聞記者の現地ルポの中に出ていないかと六感がひらめく。『ニュース・イブニング』(朝日新聞社)の索引をひけば、毎年のすべての新聞記事が、小さなコラムまで含め立ち所に調べることができる。“アメリカ・インディアン”の項を順に繰りながら、それに対応する『朝日新聞縮刷版』に当たっていくと、やはり3月10日の朝刊6面に出ていた。記者がインディアンの一人から直接聞いた話によると、ここを流れる小川のほとりで、スー族の夫婦がけんかをし、妻が夫に発砲、それで夫がひざに怪我をした出来事からきているという。

## 学生受入希望図書リスト抄

三浦周行 伝教大師伝  
御遠忌事務局 大11 (188.42-D57)  
西尾幹二 ドイツ文化の基底  
(有斐閣選書) 昭57 (361.6023-D83)  
大谷省三 現代日本農業経済論  
農山漁村文化協会 昭50 (611.021-G34)  
フーズ・パイオニア 納豆沿革史 全国  
納豆協同組合連合会 昭50 (619.602-N58)  
洪 鳳漢 東国文献備考(韓国古典影印大宝) 中  
明文堂 1981 (221-To23-2)  
張忱石他 二十四史紀伝人名索引  
中華書局 1980 (222.01-C52)

日本放送協会放送世論調査所 第2日本人の意識  
至誠堂 昭55 (361.91-N77-2)  
農政調査委員会 日本農業基礎統計  
農林統計協会・1977 (610.591-N77)  
三枝博音他 日本近代製鉄技術発達史  
東洋経済新報社 昭32 (564.021-N77)  
矢島 武 日本稲作の基本問題  
北海道大学図書刊行会 1981 (616.2-Y16)  
絹川正吉 フーリ工解析例題演習(例題演習数学  
講座4) 森北出版 1979 (413.51-K148)  
ラング, S 解析入門 続  
岩波書店 1981 (413-L24-2)



## ●新聞と雑誌の利用

本学図書館では、国内新聞12紙、外国新聞7紙、和雑誌約400タイトル、洋雑誌約540タイトル、紀要約1,650タイトルを所蔵しています。

新聞は、新聞コーナーで読むことができます。古いものは現物のままや縮刷版、またはマイクロフィルムで保存しています。外国新聞は、予算内で1紙でも多く収集する必要から船便で購入していますので約1ヶ月ほど遅れて届きます。

次に雑誌についてですが、最新号は新刊雑誌コーナーに展示し、それ以前は書庫内にあります。展示してない雑誌も多数ありますので、ご注意ください。このまま保存すると、しっかした表紙もついて無いので傷みやすく、無くなる危険もありますので1年分をまとめて製本します。自然科学系の雑誌は工学部図書室においてありますが、製本した雑誌は全て本館に戻ってきます。

最後に紀要についてですが、紀要も基本的には雑誌と同じように整理されています。1年に1冊位の割で発行されるものが多いので2、3年分をまとめて製本し、発行している大学名のABC順に配架してあります。

以上ざっと述べてきましたが、これらを有効に使いこなすためにも『雑誌記事索引』や『総目次』などを利用しましょう。何という雑誌の〇巻〇号を見たいというように正確な情報をつかんでいればそれだけ早く雑誌を手にすることができます。

## ●胃の痛くなる月例会の日

図書館では、毎月すえに“月例会”を開いている。利用者に必要文献を提供したり、各種の相談に満足がいくように回答するためには、図書館の職員は日頃勉強をしていないと、質問が多彩なだけにとっても対応できない。知識が日々書き改められている時代であるから、過去の教養は殆ど役立たないともいえる。そこで、各種の研究会等へなるべくでかけて行って研修に努めている訳である。

そのような所へ出張した者は、前述の月例会において全員の前で報告を課されるが、聞き手がまた、それぞれ専門をもち自主的に勉強している人が多いから、研究会で討議された内容を超えて、図書館界の流れへ位置づけその意義を報告しないと、みんなに遣り込められてしまう。

報告をするときは、1週間位前にレジユメを提出し、これを回覧して報告内容を衆知せしめておき、月例会へ臨む準備として全員に予習をして貰っておく。そしていよいよ当日は、司会と書記を選任して議事を進め、後のために議事録を残しておくのである。月例会が発足したのは昭和48年であるが、この月例会が果たした職員のレベルの標準化とサービスの深化は、非常に大きなものがあった。